

第2回
武蔵野市立第五小学校改築懇談会

令和4年9月29日

武蔵野市教育委員会

第2回 武蔵野市立第五小学校改築懇談会

○令和4年9月29日（木曜日）

○出席委員

鈴木座長 藤井副座長 越前委員 榎本委員 大川委員（田中代理） 金子委員 相良委員
竹浪委員 堤委員 濱口委員 林委員 松坂委員

○事務局出席者

西館教育企画課学校施設担当課長 木村教育企画課副参事
深見教育企画課課長補佐兼財務係学校改築担当係長事務取扱 松本教育企画課財務係
主任 渡邊教育企画課財務係主事

○進行

議事

- (1). 委員の追加について
- (2). 学校の特徴、地域性について
- (3). 改築にあたっての考え方（コンセプト）について
- (4). 配置案について
- (5). 仮設校舎への通学手段検討アンケート結果
- (6). 学校プールについて【報告】

◎事務局挨拶

◎委員の追加について・委員自己紹介

○事務局 資料1をご覧ください。

今回第2回目ですが、第1回目終了後に、やはり地域子ども館のことについては子ども館のスタッフの方にも入っていただく必要があるのではないかというお声をいただきまして、教育委員会内で関係各所と協議いたしました結果、地域子ども館の館長さんにも委員に入っていただくことといたしました。

資料1の裏側の別表一番下、「改築校を拠点とする地域子ども館を代表する者1人」、それから資料2懇談会名簿の真ん中辺り、「第五小地域子ども館館長」を追加しております。

○座長 それでは、前回ご欠席された委員の方も一緒に一言ずつ自己紹介をお願いいたします。

○委員 改めまして、第五小学校副校長の越前といいます。前回欠席いたしまして申し訳ございませんでした。

今後、より良い第五小学校に向けて尽力していきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○委員 五小地域子ども館館長をしております、相良と申します。よろしく願いいたします。

五小地域子ども館は「五小あそべえ」と「五小こどもクラブ」、この2つの事業を運営しております。私以下9名の職員とともに、日々子どもたちの見守りをしております。このたび、この委員に加えさせていただきまして誠にありがとうございます。

今後ともよろしく願いいたします。

○委員 西久保福祉の会の代表の林といいます。よろしく願いします。

第五小、第五中出身で、私が小学生の頃はずっとプレハブで育ちました。6年生の時に木造から鉄筋の校舎になりました。私の代が1期生で、第五小と関前南小が分かれた代になります。

それと、あそべえでは指導員を20年以上やっていますので、子どもの様子を話せたらと思っています。

○座長 では、改めまして自己紹介をさせていただきたいと思います。

第五小学校校長の鈴木と申します。第五小学校着任、今年で3年目になりますが、その前、桜野小学校の副校長で6年、井之頭小学校に教員で5年、その前、第四小学校に教員で12年と、合計26年間、武蔵野市にお世話になっており、この第五小学校の改築に携わらせていただくこと、何か運命的のようなものを感じております。

より良い校舎になるように、そしてその校舎改築までの様々な課題にもしっかりと向き

合っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎学校の特徴、地域性について

○座長 続きまして次第の2、学校の特徴、地域性について事務局より説明をお願いします。

○事務局 ここでは今後の建て替え方針の検討、設計のヒントとするために、第五小学校または第五小学校の学校を取り巻く地域の良さや特徴について、皆様からご意見を伺いたいと考えております。

その前段といたしまして、今月上旬に第五小学校の児童・生徒、教職員の皆様にアンケートを行いましたので、その結果をご報告します。

資料3をお願いします。

児童へのアンケートです。9月6日から9日、全児童を対象に行いました。方法といたしましては、あらかじめ児童1人4枚ずつの笑顔のマークのシールを配布して、アンケートの模造紙に書かれた自分の好きな場所にシールを貼ってもらいました。

アンケートの模造紙の見本が資料4になります。表裏、全体の配置図と裏が校内の配置図、これを並べて貼りました。さらに理由を書きたい場合は吹き出し型の付箋を用意しまして、そちらに記入して該当箇所に貼ってもらいました。そのアンケートの様子が資料3の2ページの写真になります。

それでは、3ページからがアンケートの結果になります。まず全体を通して見たときに、一番好きな場所の1位が体育館、2位が図書室、3位がプールとなりました。

4ページは、屋外と屋内に分けた場合の結果です。屋外は1位がプールで、理由は「泳ぐのが気持ちいい、いろいろな泳ぎを練習できる」。2位がビオトープで、理由は「自然・生き物がたくさん、メダカがいる」。3位がヒマラヤスギで、理由は「大きい、五小のシンボル」という結果になりました。

5ページ、屋内の結果は1位が体育館で、理由は「運動が好き、道具がいろいろある」。2位が第一図書室で、理由は「読書が好き、落ち着く、一人でも楽しい」。3位が自分たちの教室で理由は「広くて景色がいい、落ち着く、友達がいる」といった結果になっております。

6ページからは保護者のアンケート結果です。保護者には自由記入という形で回答をしていただいています。

質問1「第五小学校の好きな場所（残したい場所）はどこですか？」に対しては、1位がビオトープ、2位がヒマラヤスギ、同票2位でランチルームです。その他、複数の票を得た回答としては、桜、給食室、地下広場、遊具、学童・あそべえといった結果になっております。

質問2番「第五小学校の改善したい場所はどこですか？」に対しては、校舎全体への意見として動線の悪さ、半地下、暗さといったところが上位になっております。校庭の中では、ビオトープ、あとは芝生化を希望する。具体的には書かれていませんが、校庭という回答も

あります。

それから屋内に関して言うと昇降口、トイレ、子どもの放課後の居場所が分散していること、給食室、家庭科室、教室、体育館も複数の票があります。

質問3、第五小学校の未来に引き継ぎたい特徴的な活動として、1位が自校給食、2位が自然活動（ビオトープ）、同票2位で宿泊体験といった回答になっております。

4番、5番についてはプールについての質問ですが、これは後ほど詳しくご説明しますので、ここでは割愛いたします。

最後6番、その他学校の改築に関してのご意見ということで、やはり現役の児童の保護者ということで、仮設校舎の期間の学校生活について、あとはその工事期間に対するご意見、あとは現在、新しい施設に対するご意見として、安全性、明快な動線、暖色の内外装、セキュリティ、オープンな校舎、整形校舎、清潔さ、トイレのプライバシー確保、エコといったところが複数の回答を得ています。

次に8ページ、第五小学校の教職員の方へのアンケートの回答です。

質問は保護者と同じ内容で、第五小学校の好きな場所についてはビオトープ、屋上。

第五小学校の改善したい場所は校舎の動線の悪さや屋内プール希望というご意見があります。屋内ですと、やはり昇降口については複数の意見が出ております。その他といたしましては空調、緑が豊かということで網戸希望というご意見もございます。

第五小学校の未来に引き継ぎたい特徴的な活動といたしましては、こちらも保護者と同じで、1位が自校給食となっています。2位が異学年交流、その他としてノーチャイム、宿泊体験などがございました。

4番、5番は割愛させていただき6番、その他学校の改築に関してのご意見ということで、やはり明快な動線ですとか昇降口の拡充といったご意見をいただいております。

アンケートの結果については以上となります。

この後、事前にご案内いたしましたとおり、皆様が考えていらっしゃる第五小やこの地域の特徴、良さについて一言ずつお伺いできればと存じます。

○座長 それでは、今の報告を受けて、また皆様が日常的に感じていらっしゃる第五小学校の特徴や、第五小の学区の地域性などについてお伺いしたいと思います。

○副座長 30秒でということで、難しかったものですから、文書にまとめさせていただきました。

この中には、コロナで停滞している活動も一部ありますが、一番特徴的なものは、子どもたちがゲストティーチャーとかシルバー見守り隊の方にお礼状を書いています。そのときに、きちんとした字でしっかり心の籠もったことを書いて、カラフルに塗ってくれて、すごく楽しいものをくださるのですが、やはり先生方のご指導の丁寧さ、それからご家庭での教育の良さ、それから地域に関しては、私も大きくなったら見守り隊になりたいですと書いてくる子が何人かいます。それが全てだと思っております。

○委員 第五小の良さの一つとして、先ほど説明ありましたノーチャイムがあります。

情景としては6年生が1年生に「もう時間だよ」と声をかけたり、このような感じで、子ども同士が接して時間を意識する、守るという活動をしています。そんな経験をしているので、1年生も学年が上がるにつれて入ってきた下級生に対して、「もう時間だから入らなきゃ駄目だよ」というような、子ども同士の交流が生まれるというところは第五小のすてきなところだと感じています。

○委員 第五小の特徴は、副座長が全部書いていただいたのもう言うことはないですが、昔遊びに関わったときに、道で会った際に、「羽子板楽しかったね。」と声をかけてくださったお子さんがいたのを、思い出しました。

地域としては三谷通りに通学路がありますが、街灯も明るくなり、夕方になると保護者の方と帰るお子さんがいて、「こんばんは。」と声をかけてくださるお子さんもいて、雰囲気は良いと感じます。

○委員 第五小の特徴といいますか、私は子どもが今年1年生なので、まだ分からないというところもありますが、やはり地域の皆さんに見守っていただいているなと感じます。

登下校のときも1人で安心して行けますし、学童に行っているのも、ほかの学年の子にもすぐ声かけてもらったり、行った当日から「楽しい、楽しい」と言って毎日行っていますので、学校の雰囲気も学童の雰囲気も非常にいいと思うので、この雰囲気を守りつつ、いい学校にしていっていただければなと思います。

○委員 特徴については副座長がまとめてくださったとおりです。学校、自校給食とノーチャイム、これは本当に引き継いでいってほしいと思います。自校給食に関してはコスト面等もあるとは思いますが、これは本当になくなってほしくないものです。

あと青少協としては小中学生向けの地域清掃、市内の美化活動をやっていますが、五地区はもう何年とやっていません。それはなぜかという、地域に、学校前にごみ掃除するほどごみがないからです。地域の皆さんの協力、意識というのも高いと感じます。

○委員 私は第五小にきて3年目になります。ホームベースは第三小ですが、第五小に来て感じたのは、やはり給食が自校式で、子どもたちがおいしそうに、また、調理師さんや栄養士さんがその場にいらっしやることで給食をより身近に感じていると思います。

ノーチャイム制も驚きましたが、休み時間の終わりには、さっと子どもたちが入っていく様子を見ると、身につけていると感じています。

私が今年初めて運動会を見させていただいて、子どもたちの主体性をとても大事にしているというところに感動いたしました。きっと授業や行事に関してもそのスタンスでやられているのかなと思います。

学童に来る子どもたちは全体的にとっても素直で、それから保護者の方々がほど良い距離感を持って接してくださる、つかず離れずで接してくださるその距離感もとても心地良いものです。

また、地域の感じとしてはすごく児童公園が周りにたくさんあって、いろいろ子どもたちが話をしてくれるのを聞くと、やはり安心して公園で子どもたちが遊べるような環境なの

かなと感じています。

○委員 地域性というか感じる場所ですけれども、五小の応援団というか、五小の周りに非常に関心が高いというか、そういう方々の層の厚さというのを感じます。

ただ地域性としては西久保2丁目と3丁目の雰囲気と、1丁目の雰囲気は全然違います。特に1丁目は人通りが少ないです。公園もありますが、安全面で少し心配があります。

また、第五小というか、武蔵野市がそうかもしれませんけれども、集団登下校をしていないので、意味というのは何かあるのか教えていただきたいです。

もう一点、地下広場はどういう雰囲気での活用をされているのか教えてください。

○委員 私は未就学児代表ですけれども、上の子が五小に通っています。夏休み明けてから、子どもが早く家を出るようになりました。早く行く理由を聞いたら、地下広場で遊びたいからということでした。地下広場にどのような魅力があるのかは分かりませんが、楽しみがあって早く学校に行きたい、と思わせる環境を作っていただいているということで、感謝しています。

○委員 正直申し上げて地域性とかは私は良く分かりません。ノーチャイムがいいのかチャイムがいいのかとかということも、僕自身が体験していないので、そこは分かりません。子どもたちと先生方がそれぞれ感じ取っていただくところかなと思っています。

具体的ところで、地下広場はアンケートで意外と保護者がマイナスイメージを持っているケースが多いことがわかりました。ただ、うちの子どもも地下広場が意外と好きで、あのような別に意味はないけれども、気軽に集まれる場所、大人でもたまに喫煙室とかで会ったときに、逆に何か気兼ねなく話ができて、意外と仕事が話が進んだみたいなのがあると思いますが、意外とそういう空間は無駄に見えて大事だったりするのではないかと思います。

子どもが朝あそべえがすごい好きで行ったりしているので、学校好きだなと思ってもらえているというのはすごくいいことだと思っています。

○委員 地域としては住宅地で、道がまっすぐで坂がないのがありがたいです。

意外と朝、あそべえをやっていると、自然が豊かでいろんな生き物が落ちていたり、鳥が飛んできたりしているので自然があると感じています。

○委員 皆さんのほうから話が出なかったのも、実はプールの現状がそのままなのか、直すのかとなると、経済的な面では私は外部委託で、外部の専門家に任せてもいいのではないかと思います。今の技術というのは我々が小さい頃とかなり変わっていて、夏場だけでなく、年間でいろいろできるような気がします。

ただ、先ほどのアンケートを見させてもらうと、学校にあったほうがいいという方向で動いているかなと思ったのですが、経済的な面では外部委託が良いと感じました。

○座長 様々なご意見をどうもありがとうございました。何か自分が褒められているような気がするような温かいご意見をいただいて、うれしく思っております。

今いくつか出た中で、地下広場の良さということについて説明をさせていただきますと、

私も委員がおっしゃったように、特に意味のない空間というのは子どもたちの心が休まるところだと思っています。また、あそこにかかれてある壁画が非常に心をほっこりとさせるいいものです。そして地面には輪っかがいくつも描かれていて、子どもが自然にそれを使って遊びたくなるような不思議な空間であると思っています。

学校としては、様々な学校行事の折に、雨が降った場合など、あの空間を使って集会を開くことができる場所で、非常に便利な使い方をさせていただいています。

それから、集団登校をなぜしないのかというお話があったと思いますが、これには様々な理由があるかと思っています。昔から武蔵野市の小学校は集団登校をしていません。集団登校することのデメリットを優先させているのかなと私は感じているところです。特に理由があって第五小で実施していないということではありません。

では、今、委員の皆さんから出されたご意見やキーワードを基に、事務局で作業を進めていただければと思っています。

◎改築にあたっての考え方（コンセプト）について

○座長 それでは、次第の3、改築にあたっての考え方、それからコンセプトについて事務局より説明をお願いします。

○事務局 お手元のカラーの資料をお開きください。1枚目に文部科学省の言葉と武蔵野市の言葉があります。「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」、「校舎全体をゆるやかにつなぐ学びの空間」、このあたりを大切にしていこうということで、それを基にコンセプトをご説明していきたいと思っています。

次のページでは、左側にこの春発表された文部科学省の新しい学び舎のイメージという図があります。これは校舎全体を大きな木になぞらえていまして、中心に学びというものをどう豊かにしていくかといった時に、枝葉の中に大きく2つ掲げている概念がありまして、1つは、子どもたちが毎日学校に来たくなる居心地のいい生活空間をしっかりとつくること。個別にそれぞれの子どもに合ったいい居場所を見つけられるような校舎にするという話です。

あともう一つは、受け身の学習だけではなくて自分で調べて、友達と話して、発表して、というようなことが学びを豊かにしていくということが分かってきておりますので、共創する学び、お互い協同する学びというのできるような空間をしっかりと造っていくことです。この2本柱が学びに栄養を与えていくというような図になっていまして、それを支える根っこには安全と、あと地球環境と生きていくという環境の部分が掲げられています。

それが文部科学省で書いてあることですが、武蔵野市のコンセプトの中には文部科学省の話は盛り込まれている上で、さらに、校舎全体を緩やかにつなぐ学びの空間を整備することが一歩踏み込んで書いてあります。

次ページの図をご覧ください。先ほどの校舎全体を学びの空間と捉えるというときに、まず真ん中にラーニングコモンズという学びの空間を置きます。これは機能としては図書館

が拡張したような空間ですが、その上にコモنزの定義を書いております、「誰もが自由に入れる学びの場」ということで定義をしております。ですから、図書館も開放的に中央に造るということ、そして、それに対してコモنزというのは、図書館に限らず職員室の前の教えてコモنزですとか、特別教室の前の特別教室コモنزですとか、いろいろなコモنزをこのラーニングコモنزに接して散りばめることで、校舎全体の中でいろいろな居場所があるというオープンスペースを大切にしていく。それをさらに交流・興味・楽しさを生む緩やかなつながりで動線で結んでいく、回遊的な校舎にしていくということを考えています。

そうすることで自ら学びの場を、それぞれのお子さんに合った自分の好きな居場所というものを見つけて、自分の学びを自分の形で深められるというようなことが校舎でできるのではないかと考えて、緩やかにつながる校舎ということを考えております。

次のページでは、普通教室の造り方ですけれども、小学校は普通教室で過ごす時間が非常に長いということで、やはりホームルームの充実が学びの質を高めるということで考えております。

普通教室の一つの単位について、その前に、各教室専用のオープンスペースを設けます。そちらに学びが拡張することができるような柔軟な造りにして、いろいろな学び方ができるような普通教室を実現する。さらにそのオープンスペースとは別に、通路を設けるということで、動線に邪魔されない専用の学べる空間を各教室の前に造るということを考えております。

それを絵にしますと、習熟度別にグループに分かれて勉強したり、廊下にはみ出して学習したりしています。廊下も使い込むことは文部科学省も言っていますが、武蔵野市の考え方としてはより踏み込んで、廊下にはみ出して使ったときにも動線は別にとるということを考えていきたいと思っております。例えばロッカーも教室の中に置くのではなくて、廊下に出して動線との間に置くことで、より教室を拡張できるように広く使おうというようなことも考えております。

次ページでそれらを教室の階で具体的にゾーニング図として表しています。今回は、一学年4クラスを一まとまりとして造り、各教室の前のオープンスペースがこの中央のラーニングコモنزに面するような造りです。そして、教室数は年度で増えたり減ったりいたしますので、調整がしやすいように、習熟度別の学習室や多目的室を教室と同じ骨格で造っておいて、クラスの増減がしやすいように造ります。

真ん中のラーニングコモنزに関しましては、3層にわたる空間になりまして、2階が一番広く、回遊する動線で、これら全体がつながるような校舎で、一体感のある見通しのいい校舎というのが造れるのではないかと考えています。そして、そのラーニングコモنزに特別教室も顔を出して、教科の特徴についても立地上動線の中で興味をそそるような造りをしたいと考えています。

この次のページにいけますと、1階の考え方になります。中央のラーニングコモنزが1

階に下りてきていまして、エントランスホールと昇降口と校庭が直結した造りになっています。校舎の入り口は大きく1か所ということで、その横に管理諸室がありまして、職員室から全てが眺められるようになっていて、セキュリティをしっかりと取っています。

職員室の前に教えてコモンズを設けて、ラーニングコモンズに対して顔を出すような造りで交流が生まれるようにする。また、特別教室も1階にあるケースもあります。

体育館は災害拠点となりますので、必ず1階に造ります。体育館と一体的に地域開放ゾーンを造ります。特に災害時の炊き出し広場になる家庭科室は、学校ゾーンと体育館ゾーンの中間に造ります。

あと出入口ですが、地域開放ゾーンには専用の出入りができるように出入口を設けて、体育館は、防災備蓄倉庫に直接搬入できる車の寄りつけを設け、そこから直接体育館で取り取りできるように造ります。

最後になりましたが、地域子ども館は昇降口、体育館やグラウンドにも行きやすい位置に配置します。そしてお迎えを考えて、地域子ども館にも専用の出入口を設けるという構成を取れるような案にしようというコンセプトで考えていきます。

教室とオープンスペースについてですけれども、具体的に今言った話をどうやって実現するかをご説明いたします。

教室につきましては、40人だった教室が35人体制に今後なっていきます。ただ、その代わりタブレット等の教材が増えていきますので、教室の机の大きさは大きくなります。それが十分配置できる大きさにまずは確保して、その前に先ほどご説明したオープンスペースを設けて、この間の建具を可動にすることで、静かにしたい一斉授業のときは閉じますけれども、グループ学習をやるときは広げて、拡張して使える、そんな普通教室の造りをベースにしています。隣の教室とは授業が交ざらないように、この可動間仕切りを開け立てすることで、専用のスペースとしてここを使うことができる。

ロッカーがあることで通路を独立して取ることができるという造りをベースに小学校は考えていきたいと思っております。

隣の教室と間仕切る可動の間仕切りですが、掲示板にもなったり、吸音材にもなったりというようなことで、便利に使える建具にしていきたいと思っております。

集中学習、テストの時は閉め、習熟度別やグループ学習のとき広く使う。隣と同じ合同授業をやるようなときは、建具を開けてオープンに使うことも可能です。

次のページにいきますと、学年でまとまって造りますので、ロッカーを寄せることで、大きな空間を一体で造ることができて、学年集会、保護者会など学年単位で常にこの空間を造ることができるという便利な校舎になります。こうすると通り抜けできなくなるので、先ほどの回遊動線があれば、行き来ができるということで、便利な造りということになります。

普通教室の前にオープンスペースがあって、回遊動線があって、ラーニングコモンズが真ん中にあるとあって、メインの図書館は2階にありますが、プラスアルファで3階、4階にもラーニングコモンズが点在していて、特別教室も顔を出しています。校舎全体が、全員で何とな

く見渡せる一体感のある校舎ということを考えて造っていきたいと思っております。

○座長 それでは、ただいまの説明の内容について、ご質問やご意見がありましたらお願いをしたいと思います。

○委員 今のお話聞くとすごく夢みたくないいい感じになります、小学校、中学校とかあまりにも負荷がないような感じがしました。私の考えが古いだけかもしれませんが、それで教育というのはいいのかなと思いました。

○座長 今のご質問は学校現場からお話しさせていただいたほうがいいかと思います。

○委員 おっしゃるとおりなところもありますが、まずこの造り方でいいのは、多分一斉授業的なことができないわけではありません。パーテーション等工夫することにより、昔ながらのきちとした授業をすることも可能であるということです。

この教室配置等で優れているところとしては、いわゆる 21 世紀型の教育、これから来るべき時代を子どもたちが生きていくために身につけさせるためにはどうするかと逆算していくと、教室配置はこれのほうが適切なのかと思います。

子どもたちは知識は多分調べればわかるので、対話しながら自分たちでこれを解いてみたいと思わせながらやっていく、そういうことのほうが教育効果が高いだろうということ踏まえて申し上げます。

○座長 恐らく私たちが小学生の頃受けてきた小学校教育というのは、教室の中に机が並べられて、そして先生が教授するという形が多かったと思っておりますが、次第に学びのスタイル、授業の形態というのが変わってきまして、教授型の授業よりも子どもたち自らが課題を見つけてそれを解決していくというような場面が増えてきています。特に今の学習指導要領が公布されて、「主体的・対話的で深い学び」ということがキーワードになってから、さらに大きく変わってきています。

実際、それに向かって授業をやっていると、先生が一方向的に話すのではなく、子どもたち同士がグループを組んで、対話して学んでいくというほうが、子どもたちの主体性が発揮されるということと、様々な力が身につくということを実感しておりますので、これからはさらにそういう形が進んでいくのではないかと思います。

特にこの 2 年間はコロナでそのような関わりが制限されていながらも、やはり子どもたちというのは友達と対面で一緒に学ぶということが大事だということ、それに加えて学習者用コンピュータというタブレット PC が一人一人に配られたことで、全体対 1 人というのではなく、子どもたち同士で近づいて情報を共有していくというような学びのスタイルが大事だということが分かってきました。

そうしたときにこの校舎の形、教室の配置、それから可動性のある壁というようなものが、恐らくこれからの学校教育には当てはまってくるだろうと感じているところです。

○委員 非常にいいと思いますが、私の孫を見ていますと、小学校 4 年ぐらいからもう塾通いです。学校で遊び、塾で一生懸命勉強するというのも僕は問題かと思えます。

今の先生のお話で反対するわけではないのですが、競争心というのはやはり日本経済か

ら見ても必要かなと思います。だからそのあたりを養うには満足に与えるのが果たしているのかなと感じました。

○委員 私は今の子どもたちを見て、こういうスペースというのはとても上手に使うだろうと感じています。学校も、そういう授業も取り込んで上手に使うのではないかと思います。

それから子どもたちは、よく昔遊びなどすると、すぐ座り込みます。だから地べたに座っても活動できるスペースであってほしいと思います。

あとは、可動式のロッカーは危なくないのか気になりました。最後の図で言うと、こんなに吹き抜けにせず、スペースをより広くできないのかと思いました。

○事務局 まず座り込むというスペースについてのお話ですけれども、こちらについてはまだ具体的に床の仕上げをフローリングにするのかカーペットにするのかということは決まっておきませんので、そこはまた改めて設計の段階になりますが、懇談会の中もお話を伺いながらという形にはなると思います。

可動式のロッカーについては危険ではないのかというお話ですけれども、今、実際に千川小学校が使っております。千川小学校が使っているから安全だというわけではございませんが、下を大きくし転倒しにくい工夫をしながら、床に固定できるようなこともできないかということ、今研究をしているところでございます。

それと吹き抜けの件でございますが、コンセプトの最初にお話をさせていただきましたが、校舎全体を緩やかにつなぐ学びの空間というところの中で、吹き抜けを介して、お友達がどこでどんなことをしているのかというのをのぞき見できるような空間をつくりたいという目的で設計の中で盛り込んでいるところでございます。

○委員 私が思ったのはハード面は十分納得できたので、ソフト面で伺います。こういうハード側のコンセプトをいろいろ考えて新しい取組をしていただくというのはすばらしいと思いますけれども、例えば武蔵野市案の例を見て、1つの教室をいくつもグループに分けてとなった際に、この図だと教える人がグループごとにいます。単純にその教師の数が足りるのかなと思いました。

あとは、ラーニングコモンズ、いわゆる図書館を拡張するようなスペースがありますが、今まで図書館を管理していた方が、図書を管理するという仕事だけでなく、このラーニングコモンズというものを意識した動きとか能力とかが求められる気がしました。ラーニングコモンズというところをうまく回すためには、子どもたちだけでは回るとは思わないので、うまく子どもたちを導いていくような新たなポジションの方が必要だったりしないのかなと思いました。つまり、ハードが変わっていくに当たって、ソフト側に必要な人材や能力、教師の数であるとかというのが連動していないと、良いものができても活用できないのではないかと懸念しております。

○事務局 事務局側からはハード面の話で、新学習指導要領に基づいてこのような学校を造っていくということになります。

学校の先生たちの子どもたちへの指導については、やはりハードとソフトが一体的になって進めていかないと、施設が生きてこないということがありますので、ここについては学校、市の教育委員会と連携を取りながら、このスペースを使いこなしていただくための勉強等をしていただかなければいけないのかなと考えています。

○座長 スタッフの数ということで言いますと、武蔵野市の学校は他の自治体に比べて正規の教員でない講師やティーチングアシスタント、サポートスタッフですとか、そういった支援をする人材は非常に豊富だと思います。そのための予算も潤沢に組まれています。

それからラーニングコモンズ、図書館の管理についてはごもっともなところだと思います。実は、教育委員会としてはこのラーニングコモンズの管理運営のために、今いる学校図書館サポーターを質的にも勤務時間の面でも拡充して、このラーニングコモンズの運営が順調に進むように、計画を進めているところです。

○委員 先生方が今よりももっと大変にならないか心配しております。

○座長 空間があるというのは私たちも夢が広がるところで、こんなこともやってみたい、あんなこともやってみたいと考えられるかなと思っています。

○委員 今のサポートスタッフの件ですけれども、皆さんご存じのようにOECDのTALISの調査など見ると、諸外国、特にヨーロッパ中心だと思いますけれども、非常に多くのサポーターがおります。事務的なことや子どもたちの様々なケアも含めて、専門スタッフがかなりいます。これは恐らく日本の今後の動向のというか、一つ方向性だと思います。

いわゆる働き方改革の中でもそれは指摘されていることですから、先があると考えたいと思います。

それから学習指導要領の件ですが、これは10年ごとに変わるものです。今回変わったものが果たして50年、60年もつのかという問題があります。50年、60年先を見通した改築ですから、例えばラーニングコモンズという片仮名用語ですけれども、片仮名用語には気を付けた方が良いでしょう。

昔から教育の分野では不易と流行というような古い言葉があります。そういう意味で言うとラーニングコモンズというのは今注目されているかもしれないけれども、それによるマイナス面というか、50年、60年の中でどうなのかというところも考えたほうが良いのではないのでしょうか。

オープンと言いますが、実はオープンスペースの教室というのは落ち着かないのです。例えば間仕切りも非常に簡易なものだったり、あるいは教室とオープンスペースのところには可動式のものがあり、これが透明だったりします。やはりこのような環境は子どもたちが落ち着かないです。こういう面も今までの例がありますから、よく見て考えていただきたいと思います。

それから、すごく夢のある絵ですが、五小で4階がどこまで建てられるのか。それからもう一つは、第五中の中にあつたようなステップ階段が五小にもできるのかどうか教えていただきたいです。

あともう一つ、図書館の問題ですが、ご存じのとおり三鷹市は専任の図書館司書が全校に配置されています。ですから、この辺のところの充実も含めて考えていかないといけないと思います。

○事務局 まず、50年、60年先の学びがどうなのかというお話をいただきました。こちらにつきましても今、時代の流れが速いので、事務局も分からないところがございますが、対応ができるように、今回スケルトン・インフィルという手法を取り入れています。

具体的には、第五小学校のような昔ながらの学校というのは、教室と教室の間を鉄筋コンクリート造の壁で造っています。その鉄筋コンクリート造の壁というのは、大きな地震が来た時に建物を支える重要な要素です。今回はその耐震壁を外周ですとかトイレの周り、将来的に間仕切り変更がないようなところにしつらえて、それ以外のところは壊して部屋を広げたりできるような手法を取り入れて将来に備えるということを考えております。

二点目にオープンで落ち着かないというお話をいただきました。こちらについては同様のご意見たくさんいただいておりますので、対策として、今回、可動間仕切りで閉めるということもできる、可変性を持たせた対応をしようと考えています。

三点目に4階がどこまで建てられるのかというお話ですけれども、当然、法規制を守りながら、4階も一部建てていくということを考えています。この後詳しくご説明いたします。

また、五中ステップのようなものが五小にもできるのかというお話ですけれども、こちらでも五中同様にしつらえていきたいと考えております。

◎配置案について

○座長 それでは、次に第4の今度は配置案について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 資料6の図の見方ですが、真ん中に凡例がございます、今ご質問があったようなことを表現しております。現在の校舎は古い法規で建てておりますので、新しい校舎はここまでの大きさのものは建たないということを表現しております。

紫色が4階部分まで建つ範囲で、水色が3階分まで建つ範囲ということで、ご指摘のとおり4階はこの範囲ぐらいいまでしか建たないので、セットバックが必要な階になってきます。3階部分は概ね現在の校舎ぐらいいまで建てることができそうです。

そうしますと現在の校舎の水色の部分は今の法規では建たない部分です。

下の断面図の水色の塗った部分、この辺が日影の規制というのがあります。近隣の住戸に大きな影を落としてはいけないという住居地域の規定があります。そのため、この辺はもう新しく建てたら建てられない部分という形で、この赤い線と赤い色塗りは何を示しているかということ、ちょうどこの3階部分と4階部分というところを断面に形で表した線になっております。それぞれで切りますと、4階部分はここまでセットバックしなければいけないということです。その代わり、近隣さんにとっては圧迫感のない建物におのずとなくなっていくというような敷地になってきます。

あと敷地のその他条件としましてはヒマラヤスギが今正門の横にあります。できるだけ

保存したいと思っています。あと、五小のビオトープはとても歴史がありますので、これもあるべく残していきたいと思っています。そしてビオトープの横に桜の木があります。これもアンケートでは人気のスポットになっていまして、残せたら残していきたいと思っています。

あとは、五小前公園というのがここにありますので、公園との一体感というのもつくっていったらと思います。

東西の接道がありますが、東西道路との貫通、連絡性というのもこの敷地では取っていかなければいけないことを課題に考えています。

様々な条件を踏まえて本日は配置案を3案お持ちいたしました。

この表の見方としては、このグレーに色塗りした部分が既存校舎です。下の比較項目としては学びの環境をどうつくれるか、校庭の環境条件がどうなるか、近隣の方への影響がこの校舎でどう変わるかを比較しております。

校舎の配置の考え方ですが、①番の案につきましては、既存の校舎の配置となるべく近い配置というのを狙って考えた案になっております。

実は既存の校舎から新しい校舎を新しい基準で建てますと1.5倍ぐらいの面積に大きくなります。先ほどの話で、地上のボリュームというのは抑えられますので、どうしても、建物の外形は大きくなります。既存の校庭の具体的に走り回る平たい部分というのは、なるべく確保したいということで今、考えています。

学びの空間のつくり方ですが、地域子ども館はこちらの旗ざお敷地に置きまして、その上をプールにして、あと体育館は現状と同じような配置にします。

新しい校舎では、教室とオープンスペースということで、普通教室部分が今までより少し豊かな空間になってきます。この角地にラーニングコモンズを置いて、そこにそれぞれの学年からアクセスできるような基本的な教室の組み方ができるのではないかと考えております。

ただ、先ほどご説明したラーニングコモンズを囲むような配置というのが、どうしてもこのL型校舎案だと造りにくくはなってきます。ラーニングコモンズからの動線としても全員が均等に近いというわけにもいかないの、離れた教室はどうしてもできてしまうということが若干の弱点にはなってきます。

ただ、校庭の広さという意味では既存と同じような広さは何とか取れるのではないかと考えていて、日当たり条件も既存と一緒にです。あとは、近隣さんへの影響という意味では既存とほぼ同等ですので、近隣さんからの印象としては、ほぼ既得権そのままという形で、優秀な案になっております。

続いて②番の案ですが、こちらは、校舎を北側に寄せまして、地域子ども館は同じ旗ざお敷地にいるんですけども、校舎のほうでは体育館を取り込んだ、ころんとした形になります。

校庭につきましては、今度は縦長に取ることができまして、現状よりも少し広めの校庭を取ることはできます。

特徴は、先ほどご説明したコンセプトには近い形、全体に回遊性も確保することができ、緩やかにつながれることはできます。そしてラーニングコモンズと教室の関係は非常に平等に近くなります。特別教室もラーニングコモンズに顔を出すことはできそうということで、学習環境としては「◎」の案にはなりません。

校庭についても既存より少し広いぐらいにはなりますし、日当たりの条件は既存と同じように、日の当たる校庭になります。

最後、近隣との関係は、ほぼ既存同等と言えますが、道に対する校舎は大きくはなっています。ただ、ヒマラヤスギや既存の木がここの辺もありますので、それらはなるべく残して、五小前公園とつながりを生む広場というのは取ろうとしています。その辺で圧迫感はあるべくないようには造れるのではないかと考えています。

続いてもう一案考えてみました。地域子ども館と校舎をくっつけて造った案です。そうすることで、ビオトープや桜と校舎の関係というのも近くなっていいことはありますが、あとは学習の環境としては北側配置案も南側配置案も、似たような豊かな学習環境をつくることはできます。校庭も広さとしては広めに取りることができます。この案が最も校庭が広いぐらいです。

ただ、校舎の日陰が冬は校庭に出るというところが「○」のポイントになってきます。

近隣への影響ということで、今まで校舎がなかったところに、校舎が来ますので、近隣に対しての条件が大分変わるということも少し心配のポイントになっています。

どの案も共通して、バリアフリーのポイントとしては、同じように確保する計画にしております。体育館は全部1階に配置するということですので、地域開放部分も1階に配置する、フラットにアクセスできるということで、各階の校舎の中も、もちろんエレベーターを造って、段差なく造りますので、万が一車椅子のお子さんが通いたいと言ったときも通える学校というのには今度ではしていくということは充実していく予定ですので、ご心配ないということも申し上げます。

続いては、最後に、今の配置の中で、教室の向きがあちこち向いておりましたので、教室の向きについて解説させていただきます。

従来、学校は南向き、東向き教室が良いと言われておりました。それを分析しますと、太陽の高度というのが違ってまいります。南向きは、夏は日差しの高度が高いので、バルコニー等を出せば暑い日差しはカットすることができるので、教室を暑い夏も快適に保つことができます。

ただし、今回比較のポイントが4つありまして、まぶしさと省エネ効果と採光とまとめということになっております。まぶしさというポイントが出てきたのは最近の傾向でして、やはりタブレットやプロジェクターで映して授業をするときに、直射光があると見えにくくなるということがあります。

あとは省エネ効果というのが昨今はとても大事になってきております。やはり直射光が入りますと負荷が高いということになってきます。

採光につきましては、太陽の日がどう入るかというところで、まぶしさと少し近いポイントにはなってきますが、最初に申し上げた南と東が小学校は採光が直接入って明るい教室になるというポイントになってきます。

最後、まとめですが、そのような意味で、南は環境負荷としてはカットすることはできませんが、少しまぶしいという欠点が出てきます。東については、どのシーズンも光は入ってしまいますので、やはりこれからの授業ではカーテンを閉める必要が出てくると思います。そして西については、夏の日差しは午後が暑いので、環境負荷が最も高くなります。西向きの教室は今後の地球環境を考えると欠点は多いという教室になってきます。最後、北向きの教室ですけれども、直射光は入らないのですが、まぶしさという意味では安定した光が入ってきて、カーテンを閉めずとも授業ができるというポイントがあるのと、環境負荷的にも優秀ということで、そんなに悪い教室ではないというのが最近の見方になってきております。

○委員 配置案の比較表で、校庭の面積を評価されていますが、この評価は精査されるべきだと思います。資料では、緑線で囲んでいる部分を校庭と定義し、面積を算出されています。緑枠の外側の余白に目を向けると、現行の配置と比較して改築後の配置案は余白が少ないように感じました。現行では、余白部分にジャングルジムやのぼり棒、鉄棒や砂場があるかと思えます。改築後の配置案において、それらの遊具類はどこに配置されるのでしょうか。走り回れるスペースを校庭と定義し、新旧の配置案を比較するのではなく、遊具類を含めた面積で比較したら現行よりも狭くなっている可能性もあるのかな、と思いました。校庭を走り回れるスペースと定義して、新旧を比較し、改築後は大きくなるからOKである、という論調で進めて良いのか、気が付いたこととしてコメントさせていただきます。

○事務局 案の緑のところは、実際に走り回れるところを面積として算定をさせていただいております。その周囲の白いところで、ジャングルジム等の遊具関係をしつらえたいと考えております。

次回もう少し細かい、詳細の説明ができるように資料を用意させていただきたいと思えます。

○委員 南側に校舎が建つと、冬場の校庭が恐らく霜柱が立って、なかなか使えなくなる期間が長くなると認識しています。そういう中で南側校舎というのは、そのリスクはないのかというところを伺いたいと思えます。

○事務局 委員おっしゃるとおり、校庭を校舎の北側に持っていきますと、特に冬場、雨、霜柱、雪、そういう関係でぬかるむ期間ができるということになりますので、もしこちらの案がいいという形になった場合は、校庭のしつらえもセットで地球環境に優しい人工舗装等も考えていかなければいけないということで、やはり北側校庭にした場合は何らかの対応が必要だというふうに考えております。

○委員 配置案の②番の北側校舎の配置案は、プールまで渡り廊下になっていると思えますが、ここがどういう造りになるのか気になりました。アンケートでもプールが寒かったとか、水が冷たいみたいな話があったと思えます。上がった後にどんな感じで校舎に戻ってく

るのかイメージをお聞かせいただけるとありがたいです。

○事務局 まずプールでございますが、今、この②の案で想定しておりますのが、1階部分に地域子ども館を入れさせていただいて、2階部分にプールを設置するという計画です。プールだけではなくて、こちらに更衣室も造りますので、子どもたちを校舎のほうから屋根付きの渡り廊下を通りプールに移動して、そちらで着替えてプールに入らせていただくということを考えています。

渡り廊下は屋根はかけますが、一般的な壁はないです。袖壁程度でございますので、完全な囲われた廊下ということではなくて外部ではございますが、雨はしのげるような渡り廊下を想定しております。

○副座長 先ほどの教室とオープンスペースの図を見せていただいて、非常にゆとりのある、いろいろな使い方ができるスペースになるのかなと思っておりましてけれども、将来的に少人数化がもっと進んで、クラスの数が増えた時にもスケルトン・インフィルで対応できるということによろしいのでしょうか。

それからラーニングコモンズについて、五中は、五中ステップで大分スペースを取ってしまったのですが、そういうところが校庭の広さを圧迫しているのではないかをお聞きしたいです。

それから、先ほどプールについてご説明がありましたが、プールは屋上設置か外部化の2択ということでしょうか。屋上にプールがある学校を見たことがありますが、耐久性には問題ないと思いますけれども、例えば大きな地震があった際に漏水になって、下の地域子ども館に水漏れしたりするのはとても困るなと思っています。

○事務局 まず、子どもたちの人数の件でございますが、現在この1学年4クラスにつきましては、平成30年の人口推計に基づきまして、児童のピークを考えてこの数としております。今年度、新たな人口推計をやっているところでございますが、もしここで数が増えるようなことがあれば教室を増やしていかなければいけないと思いますが、本当に一時的な増になりますので、そこはどうか対応していくのかというのはこの基本計画、基本設計の中で検討させていただきたいと思います。

それと少人数がもっと進んでというお話ですけれども、それは35人学級が30人学級になってというような想定ですよ。そのタイミングというのは、教員の数とか、もろもろほかの問題もあると思いますので、今すぐということにはならないと思います。先ほど申し上げましたとおり、ピークに合わせてクラス数を設けておりますので、それでも足りない場合は、空き教室を利用するというようなことを考えています。

ラーニングコモンズの広さについてでございますが、ラーニングコモンズはゆったりと造っています。それはやはり、学校中心に子どもたちがいつでも学べる空間ということで設けているからです。今回この形については、廊下などの共用部分をなるべく小さくすることによって、五中とは形が異なります。無駄に大きくはしていないというところをご理解いただければと思っております。

あと、校庭も重要な学びの空間でございますので、学校の校舎、それと校庭というようなバランスを取りながら考えさせていただいているところです。

プールにつきましては屋上・外部の2択ですかというご質問につきましては、そのとおりでございます。第五小学校もですが、今一緒に進めている井之頭小学校、こちらもやはり敷地が非常に狭いという問題がございます、平置きをするスペースはございませんので、どうしても屋上に設置することになります。

大きな地震が来たときの水漏れにつきましては、今、最新の知見に基づいて構造設計を進めます。当然、防水関係も含めて最新の技術を持った施工をしてみたいと思いますので、そういったことがないように、施工していきたいと考えております。

○委員 前回はプールの件をお教えいただきましたが、四中は屋内プールです。近年、地球温暖化で暑過ぎてプールが使えないことがあると聞いています。

50年、60年もたせるプールですから、使えないプールを造ってもどうしようもないと思います。だからといって私は外部委託には大反対ですが、やはり使えるプールを造るべきだと思います。

皆さんご存じかもしれませんが、品川区立日野学園のプールを見に行ってください。何がいかと言うと、屋内プールの良さというのは、要するに全天候使えます。それだけでなく、地域の住民の方々に開放もできます。そうすると、委託も含めて負担が減るわけです。地域開放も含めた形で地域の福祉にもつながるといことなので、2択ですと前回は今回も強くおっしゃったのですが、私はぜひ日野学園を見に行きたいと思っております。

それから南校舎の問題ですが、ご存じの方も多と思いますけれども、鉄筋コンクリートは土日でものすごく冷えます。月曜日の朝、子どもたち来たときに、冷え冷えとした教室になってしまいます。校庭の問題も含めて、小学生の子どもたちにとっては日の当たる東や南の教室というのが理想だと私は思っています。

○事務局 プールの件でございますが、屋内プールは事務局でも検討させていただいたのですが、今後、二十数年間かけて16校を建て替えていくこの計画では、財政的に非常に難しいという結論に至ったところでございます。屋内プールを各校に設置できればこれに越したことはないのですが、財政的にそれは非常に厳しいというところで、このような2択をさせていただいております。

校舎の配置案につきましては、皆様のご意見をいただきながらと思っておりますので、ご意見の一つとして承らせていただきます。

○委員 学校の東側に住んでいる場合、西門に行くのに五日市街道を通らないといけない。五日市街道を通らないでも済むように抜け道のようなものがあると有難い、というような話が前回、委員の方から挙がっていました。これは五小特有の課題かと思っておりますが、今回の配置案ではこの課題をどう解決する想定でしょうか。

また、配置案の①だと校門を表す赤い△マークが1個しかないように見えます。現在は、何らかの事情があって、校門が2つあるのだろうと想像しますが、校門を1個にする、とい

う選択肢はあり得るのでしょうか。

○事務局 まず、①から③のこちらでお示ししております配置案につきましては、どれも東西の道路から出入りができるように検討を進めさせていただいております。

通学路につきましては、こちら①のほうにつきましては赤い「△」ついておりませんが、赤い「△」つけることは可能ですので、子どもたちがもしこちらから通学することもあるということであれば、こちらからも入れるようにします。

○委員 質問は、夏休み中に学童へ行くときに、正門が閉じられていて西門にまわるよう指示があり、毎日五日市街道を歩いてきた件について、危険性のある五日市街道を通らなくても済むようにならないか、ということです。どのように解決する想定でしょうか。

○事務局 ぐるっと回らないような貫通通路を設けます。

○委員 五小の周りの民生委員をやっています。近隣住民からいいますと今の状態がうまくビオトープがあってクッションになっていたり、またその北側も駐車場があってワンクッションがあることで、北側が接近しているので、③の案だとかなり厳しいかなと思いました。

あとは南側にあそべえができることで、今までなかった声のことは影響があるのかなと思います。

それから五小の裏、西側にも五小地区範囲がありますので、私は担当させていただいてますけれども、こちらから通う子もいますので、やはり入り口は必要であろうと思います。

○事務局 配置案については、はい、ご意見として承りましたので、ありがとうございます。

それと新しく現在あるプールがあるところに地域子ども館を設けるということについては、おっしゃるとおり、戸建て住宅が建ち並んでおりますので、気にしているところがございます。今後、近隣アンケートもさせていただきますので、ご意見を聞いていきたいなと思います。

それとあと、西側から通われているお子さんがいるというお話なので、西側にもしっかり赤い「△」入れさせていただいて、通学ができるということを表現させていただきたいと思います。

◎仮校舎への通学手段検討アンケート結果

○座長 では、次に次第の第5、仮校舎への交通手段アンケートの結果について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、資料7をご覧ください。第五小学校改築に伴う通学手段検討のためのアンケートの結果をご説明いたします。

まず、前回の懇談会でもご説明いたしましたが、第五小学校は改築工事期間中に第五中学校の仮設校舎に移転いたします。資料のほう、大丈夫でしょうか。今回のアンケートは今後の検討の参考のために、実際に現在小学校に通っている保護者の方のご意向を伺うために実施しました。

アンケートの際にお示しした運行ルート案は、こちらの左側のページにある図のとおりです。この運行ルート案の設定は次の5点を前提にしております。こちらの下に書いてある前提をご覧ください。

1点目は、多くの児童が乗車できる路線バスタイプのバスを使用することです。これは事務局で事前にバス会社に調査をしたところ、希望者全員に対応する場合、マイクロバスでは台数が不足してしまう可能性が高いということが分かったために、このような路線バスを検討しております。

2点目は、大型バスが複数台一定時間停車できる場所であること。

3点目は、数十人の児童がまとまって待機できる安全な待機場所であること。

4点目は、登下校時間の交通渋滞のおそれが少ないこと。

5点目は、ムーバスはコミュニティバスのため特定時間のバスに多くの児童が乗り込む、団体としての通学手段に利用できないというところです。

それでは次の(3)よりアンケートの集計結果をご報告いたします。回答者数は295人で、回答率は60%でした。Q1からQ4はグラフのとおりになります。Q3とQ4については、早朝あそべえ、こどもクラブともに利用している児童が、事務局が予想していたよりも少ない結果となりました。

次に裏面において、Q5でスクールバスの乗車の希望を伺いました。スクールバスの希望者は全体の39%でした。その下のグラフは学年別、住所別で希望者を表したものです。

次にQ6、Q7では、自由記述で回答をいただきました。このようにたくさんのご意見があるのですが、特に多かったご意見としては、対象学年を全学年の対象としてほしい。バス停をほかに増設してほしい。バスの時間を遅い時間でも運行してほしいというようなご意見が多くありました。

それでは(4)でアンケートの結果をまとめますと、学年別のスクールバスの乗車希望者の割合を見ると、低学年のほうが高学年に比べてスクールバス乗車希望の割合が高いということが分かりましたが、高学年にも一定のニーズがあるということが分かりました。

続いて、住所別のスクールバスの乗車希望者の割合を見ると、西久保3丁目、特に西久保3丁目の1から7番にスクールバスの希望者が多く、次いで関前3丁目の2から5番にスクールバスの乗車希望者が多かったという結果になりました。

ただし、こちらのルートをお示しして、西久保1丁目に在住の児童の保護者からは、バス停が遠いという理由で希望しないというご意見が多かったです。

その他のご意見では先ほども申し上げましたが、バス停を増設してほしい、全学年を対象としてほしい、遅い時間もバスを運行してほしい、交差点に見守りを設置してほしいという意見が特に多くありました。

次に(5)、最後に今後の課題として2つ挙げています。1点目が今回のアンケートで提示した運行案を前提に、バス停の増設について検討するです。こちらについては現時点の事

事務局の想定といたしまして、現在の運行ルート上の井の頭通り沿い、学区の東側にバス停が増設できるのではないかと考えております。

2点目の、バス停及び通学の見守りについては学校と相談し、場所、人数について検討を進めてまいります。

駆け足にはなりましたが、資料7の説明は以上となります。

通学手段の検討については昨年度から行っておりますが、様々な条件がある中で最適なルート、手段等を模索しているところでございます。委員の皆様のご意見やアドバイスをいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○**座長** ありがとうございます。恐らくこの件についてはたくさんご意見があると思いますが、次回にここを少し時間をかけてお話しする機会というのを設けていただければでしょうか、それとも今日ご意見を伺ったほうがいいですか。

○**事務局** この通学手段の件につきましてはかなり重いお話でございますので、各回長い時間は取れないので、短い時間で各回取らせていただきたいと思いますと考えております。

○**委員** 関前3丁目南のバス停についた後、五中にはどこから入ってくるのでしょうか。想定している校門の場所を資料に記載いただきたいです。

○**事務局** 現時点は南側を小学生、北側を中学生と想定しています。しかし、やはり小中のご兄弟がいるようなお子さんたちが別々というのはどうなのというお話もいただいているので、学校とも相談をしながら、北側からも南側からも入れるようにできたらと考えております。第五中学校の北側の今の現在の正門が広がりますので、そこからの出入りと南側の井の頭通り沿いの出入りを想定しています。

バス停が今、第五中学校の少し北の上になりますけれども、「△」マーク入れているところです。今、自転車を販売しているお店があるところですが、少しバスが寄せられる場所があります。そこで降りていただいて、住宅街の中を真っすぐ南側へ歩いて行くルートが一番安全ではないかと考えているところです。

○**委員** 北側の方がバス停から近いので、ぜひ北側でお願いしたいと思います。

○**座長** 当初の案とは変わっていますね。

○**事務局** はい。当初、やはり小学生と中学生が一緒の入り口だとトラブルが起きるというような話がありまして、あえて分けていました。ですが、逆に中学生が小学生の面倒を見たりする、そういう地域性もあるのでというお話もいただきましたので、小学校の校長先生、中学校の校長先生とも相談をさせていただきながら、学校へ入っていくルートを考えていきたいと思います。

○**座長** 交通手段については、本日はここまでとさせていただきますと思います。

◎学校プールについて【報告】

○**座長** 続きまして、プールについて事務局より報告をお願いいたします。

○**事務局** 第1回の改築懇談会の中で、委員の皆様から自校設置か外部化かについてご意

見をいただいたところでございますが、前回、委員の方から他自治体の事例ですとか、メリット・デメリットを示していただきたいというようなご意見をいただきましたので、今回資料をご用意させていただきました。

また、児童、保護者、教員の皆様にアンケートを実施させていただきましたので、その内容についても併せてご紹介をさせていただきます。

今回は内容の説明をさせていただいて、次回、第3回の改築懇談会で、皆様からお一人ずつご意見を頂戴したいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

まず初めに、現時点の市の考え方を改めてご説明をさせていただきますと、市は現時点では自校設置か外部化かという件については全くフラットな状態でございます。また、今後市として一律で外部化ですとか、自校設置ということも考えておりません。学校の改築に合わせて、各校の懇談会等で意見を伺いながら各校ごとに自校設置か外部化か方向性を検討し、最終的には教育委員会で決定をさせていただきたいと考えております。

なお、外部化につきましては、やはり受入れ先である民間プールの空き状況というものが課題でございます。市が外部化したいと手を挙げたところで、受入れ先がないということもあり得ますので、そういったことも考えながら検討していきたいと思っております。実際に何社かヒアリングをさせていただいておりますが、もう既に私立の幼稚園、小学校も受け入れているので、やるなら早めに一報くださいというようなことも言われているところでございます。

それでは資料8をご覧ください。

学校プールについてということで、1プール設置のメリット・デメリット比較というところでございます。まず上から、自校設置型でございますが、メリットといたしましては移動時間がかからない。全校統一的な対応が取りやすい。ランニングコストを抑えられる。バスの運行料ですとか施設使用料については要らないというところです。

デメリットにつきましては、天候により中止になることがある。教員が水質管理や水位調整を行う必要がある。屋外のため、天候により寒い、プールの水が冷たいというようなことがございます。屋上プールは漏水リスクが若干あるというところでございます。括弧の中ですけれども、技術の進歩と適切な保守でリスクは低減ができます。23区では改築の際、大半の学校が屋上プールを整備をしております。最後、イニシャルコストがかかるということです。

続きまして、民間施設活用型でございます。メリットでございますが、天候に左右されず、計画的に水泳指導を実施できる、寒さや水の冷たさがない、地球温暖化に伴う紫外線などの影響も抑制できる、最小のコストで専門インストラクターの指導を受けることができる、教員による施設管理が不要になる、イニシャルコストを縮減できるです。

デメリットといたしまして、移動時間がかかる。バスで移動する場合も、道路幅員の関係で学校や施設の前に駐車できるとは限りません。使用時間が限定される。これは施設側の状況です。施設側の状況により、使用できなくなる場合も想定されます。ランニングコストが

高い。バス運行料ですとか施設使用料が発生いたします。

今後 60 年間費用を試算をさせていただいたところ、自校設置と民間活用の間に大きな差はございませんでした。また、プールの授業につきましても、現在年間 10 時間となっております。

裏面をご覧ください。2 につきましても水泳指導外部化を実施している近隣自治体ということで載せています。葛飾区、多摩市、日野市、清瀬市、佐倉市、北本市、志木市、海老名市、ここについて、全校でやっているわけではなくて、今後全校目指す学校もあれば一部でやっていたりというようなことでございますので、後ほどお時間があるときに読んでいただければと思います。

続きまして、3 番につきましても葛飾区の事例紹介ということで、1 か月ぐらい前ですか、NHK でも取り上げられておりましたので、紹介で入れさせていただいております。令和 2 年 12 月に今後の水泳指導の実施方法に関する方針を策定したということで、小学校について、今後温水プールでの水泳指導ができるようにしていくというような考えを示しております。

メリット・デメリットを下に入れさせていただいておりますが、これについては先ほど申し上げましたメリット・デメリットとは大きな差はございませんが、外部化のメリットのところは 1 つ、下から 2 番目ですけれども、改築校のプール設置場所を有効利用することができるというのが一つ、先ほどの 1 番のところにはない内容でございます。

続きまして資料 9 のほうをご覧ください。学校プールのアンケート結果でございます。3 年生以上の児童、それから全学年の保護者、それから教職員を対象にアンケートを実施させていただきました。児童につきましては回答率 64% というところでございます。

質問の 2 のところですが、「学校のプールについて、感じていることを選んでください」という質問です。1 番「水泳の授業は楽しい」は約 78%、それと 2 番「もっとうまく泳げるようになりたい」というのが約 60%。「天気によって水泳の授業が急に中止になるのは残念」というのが約 65%。「温水プールで授業ができるのであれば、スイミングスクールなどの外のプールに行くのもよい」、こちらについては 28%。5 番の「水泳の授業は、自校のプールのプールでやりたい」というのは 41%。6 番の「水泳の授業は、スイミングスクールの先生に教えてもらうのもよい」、22%。「水泳の授業は、自分の学校の先生に教えてほしい」、33.5% という結果でございます。

学校のプールについて特に感じていることということで、質問の 3 のところですが。寒過ぎて入りたくない、水泳の授業はできればやりたくない、シャワーが冷たい、プールサイドが暑い、屋内プールにしてほしい、屋根をつけてほしい、虫とかごみとか葉っぱが落ちていると、それから更衣室ですね。更衣室が汚いということで、きれいにしてほしい。学校のプールは建て替え工事をして残してほしい、学校のプールは泳ぐだけではないので楽しい、プールはなくさないでほしいといった児童からのご意見がありました。

次に保護者です。保護者については回答数 93 名、回答率 19% ございます。

「考えに近いものを選んでください」というところでございますが、まず1番「子どもは学校の水泳の授業を楽しみにしている」というのが67.7%。「水泳の授業で、泳ぎがうまくなってほしい」、43%。「天気によって水泳の授業が急に中止になるのは残念」というのが60%。「職員が毎日行っているプールの水質管理作業は負担になっていると思う」というのが35.5%。「スイミングスクールなど外のプールに行くのもよい」というのが35.5%。「プールは学校の敷地内にあるほうがよい」、41.9%。「水泳の授業はより専門性の高い指導を期待する」というのが18.3%という結果になりました。

裏面をご覧ください。水泳の授業について感じていることですね。学校では着衣水泳など、水難対応を最低限教えていただけたら、あとは楽しく水に楽しむ程度でも良いようにも思いますというようなご意見もありました。それと、屋外プールでなくても良いというご意見。それから更衣室が汚い、学校のプールに外部の先生が来てほしいというような意見、屋内プールもしくは簡易的でも屋根をつけてほしい。そして計画的に授業ができ、先生の負担も減らせるならば、外部委託も良いと思う。一人一人に指導が行き届くか気がかり。使われていない時期が大半なので、施設としてもつたいなさを感じる。指導する方を外部から呼んでも良い。スイミングスクールに通わなくても泳げるように指導してほしい。スイミングスクールに指導を委託している自治体もあるようなので、それでも良いのではないかと思います。それとプールは敷地内に設置してほしい。プールは学校内に絶対に必要。学校外は移動に時間もかかり、安全確保も大変ということで、第五小学校は、結構外部化よりも自校のほうの意見のほうが若干多かったのかなと思っております。

最後は教職員の結果です。回答率8名、20%ということで、先生方のご意見は少なかったのですが、先生方には3点質問をしております、プールは学校の中にあるのが良いのか、外部の温水プールを活用して授業を実施したほうが良いのか、どちらでも良いのかという3つの質問です。

まず、学校の中にあるほうが良いというのが5名、62%で、外部については2名、25%、どちらでも良い、1名、13%という結果です。

まず1番目の「学校の中にあるほうがよい」を選んだ理由です。指導要領で指導すべき事柄である以上、学校内にプールが設置されるのは必須だと思う。また指導内容がぎっしりと詰まった昨今の状況だと、外部にあるプールを訪問するゆとりと時間はない。水量や塩素濃度等、機械で管理できるものを取りつけられるなら学校内が良い。それが難しい場合はどちらでも良い。年間5回の授業より、学校で10回入るほうが児童の泳力向上につながる。外部委託だと移動時間が多くかかることが一番デメリットだと思う。

2番目といたしまして、外部の温水プールを選んだ理由ですね。こちらについては、プール設置場所に他の施設を増設したほうが教育的効果が高いから。それから天候に左右されやすく、中止もあるから。管理が大変だからというようなご意見をいただきました。

ご意見については抜粋ではございますが、次回の改築懇談会までお目通しいただきまして、次回ご意見をいただければと思います。

○**座長** 本日は報告のみということですので、学校プールについてはここまでといたします。

事務局からは何かございますか。

○**事務局** 次回の懇談会のご案内です。次回は 10 月 31 日 月曜日の午後 6 時から、こちらの西久保コミュニティセンターの大会議室で行います。よろしくお願いいたします。

○**座長** それでは、本日の懇談会を終了いたします。

皆様、長時間にわたりありがとうございました。お疲れさまでした。

午後 0 時 02 分 閉会